

比較貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

資 産 の 部				負 債 ・ 純 資 産 の 部			
科 目	第 49 期	第 50 期	対前期比較	科 目	第 49 期	第 50 期	対前期比較
	2019年3月31日	2020年3月31日	(20/3-19/3)		2019年3月31日	2020年3月31日	(20/3-19/3)
資産の部	96,460	65,182	△31,278	負債の部	83,378	51,869	△31,509
流動資産	82,145	27,756	△54,389	流動負債	79,822	48,565	△31,257
現金及び預金	124	30	△94	買掛金	72,572	31,773	△40,799
売掛債権	47,929	19,152	△28,777	短期借入金	930	10,930	10,000
棚卸資産	3,008	2,174	△834	前受金	4,044	4,809	764
短期貸付金	21,038	6,726	△14,313	その他	2,276	1,054	△1,222
差入保証金	10,110	0	△10,110	固定負債	3,556	3,303	△252
その他	△64	△326	△261	預り保証金	2,564	2,454	△110
固定資産	14,315	37,426	23,111	その他	992	850	△142
有形固定資産	11,687	11,435	△252	純資産の部	13,082	13,313	232
無形固定資産	379	449	70	株主資本	12,631	13,016	385
長期差入保証金	347	23,939	23,592	資本金	2,000	2,000	—
投資その他の資産	1,902	1,603	△299	利益剰余金	10,631	11,016	385
				評価・換算差額等	451	297	△153
合 計	96,460	65,182	△31,278	合 計	96,460	65,182	△31,278

比較損益計算書（要約）

（単位：百万円）

科 目	第 49 期	第 50 期	対 前 期 比 較
	2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2019年4月1日から 2020年3月31日まで	(当 期 - 前 期)
売 上 高	483,580	437,381	△46,199
売 上 原 価	476,182	429,780	△46,403
売 上 総 利 益	7,398	7,602	204
販売費及び一般管理費	4,947	5,470	523
営 業 利 益	2,451	2,132	△319
受取利息及び配当金	78	66	△12
支 払 利 息	△209	△184	25
そ の 他 の 損 益	28	7	△20
営 業 外 損 益 計	△103	△110	△7
経 常 利 益	2,348	2,022	△326
特 別 利 益	1	6	5
特 別 損 失	76	364	289
税 引 前 当 期 純 利 益	2,273	1,663	△610
法 人 税 等	737	664	△73
当 期 純 利 益	1,536	999	△537

(個別注記表)

I. 重要な会計方針

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 棚卸資産の評価基準および評価方法

総平均法に基づく原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(2) 投資有価証券の評価基準および評価方法

子会社株式および関連会社株式：移動平均法による原価法

その他有価証券：時価のあるものは決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないものは移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産の減価償却は定率法による（リース資産を除く）。

ただし1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備は除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用している。

(2) 無形固定資産の減価償却は定額法による（リース資産を除く）。

なお、無形固定資産の内、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用している。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

(2) 賞与引当金は従業員の賞与支給に備えるため、支給見積額のうち、当期対応分の金額を計上している。

(3) 役員賞与引当金は役員の賞与支給に備えるため、当期の支給見込額を計上している。

(4) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当期末における退職給付債務（簡便法）および年金資産額に基づき計上している。

(5) 役員退職引当金は、役員に対する退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

(6) 特別修繕引当金は、油槽等の開放検査および修理に係る費用について当期末までの見積額を計上している。

4. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法は繰延ヘッジ処理によっている。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理によっている。

(2) ヘッジの手段およびヘッジ対象

① ヘッジの手段・・・商品スワップ
為替予約

② ヘッジの対象・・・石油製品の予定取引
外貨建金銭債権及び外貨建予約取引

(3) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規程および内部規程に基づき、商品価格リスクおよび為

替変動リスクを一定の範囲でヘッジしている。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時およびその後も継続して相場変動を相殺することを確認することにより判定している。ただし、振当処理によっているものについては、有効性評価を省略している。

5. その他計算書類作成のための重要な事項

消費税等の会計処理は、税抜方式を採用している。

(未適用の会計基準等)

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)

①概要

収益認識に関する包括的な会計基準である。

②適用予定日

2022年3月期の期首から適用予定である。

③当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当計算書類作成時において評価中である。

II. 貸借対照表関係

1. 有形固定資産の減価償却累計額	17,524 百万円
2. 関係会社に対する金銭債権債務	
短期金銭債権	14,612 百万円
長期金銭債権	77 百万円
短期金銭債務	11,992 百万円
3. 担保に供している資産および担保に係る債務	
担保に供している資産	
土地	4,438 百万円
建物	227 百万円
構築物	156 百万円
機械及び装置	230 百万円
投資有価証券	611 百万円
計	5,661 百万円
担保に係る債務	
買掛金	20,265 百万円

III. 損益計算書関係

関係会社との取引高

売上高	94,266 百万円
仕入高	9,941 百万円
営業取引以外の取引高	1,880 百万円

IV. 株主資本等変動計算書関係

1. 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首の株式数	当事業年度の 増加株式数	当事業年度の 減少株式数	当事業年度末の 株式数
普通株式	87,745 株	—	—	87,745 株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当の原資	配当金の 総額	一株当り 配当額	基準日	効力発生日
2019年 6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	614百万円	7,000円	2019年 3月31日	2019年 7月1日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当事業年度末後になるもの

2020年6月29日開催の定時株主総会の議案として、次の通り提案する予定である。

決議予定	株式の 種類	配当の原資	配当金の 総額	一株当り 配当額	基準日	効力発生日
2020年 6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	399百万円	4,550円	2020年 3月31日	2020年 7月1日

V. 金融商品関係

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定している。

営業債権である売掛金に係る顧客の信用リスクは、営業取引規程に従い、各部署が取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っている。

また、投資有価証券は取引先企業との業務に関する株式であり、上場株式については、四半期ごとに時価の把握を行っている。

短期貸付金および短期借入金はグループ資金（短期）の有効利用を目的としたものであり、償還日は決算日後、一年以内である。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2020年3月31日（当期の決算日）における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りである。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含まれていない（注2）。

科目	貸借対照表計上額（*）	時価（*）	差額
(1) 現金及び預金	30百万円	30百万円	—
(2) 売掛金	19,152百万円	19,152百万円	—
(3) 短期貸付金	6,726百万円	6,726百万円	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	837百万円	837百万円	—
(5) 買掛金	(31,773)百万円	(31,773)百万円	—
(6) 短期借入金	(10,930)百万円	(10,930)百万円	—
(7) 前受金	(4,809)百万円	(4,809)百万円	—

(*) 負債に計上されているものについては、() で表示している。

(注1) 金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券に関する事項

(1) 現金及び預金、(2) 売掛金、(3) 短期貸付金、

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

なお、一部の外貨建売掛金は、外貨予約の振当処理対象とされており、ヘッジ対象とされる売掛金と一

体として処理しているため、その時価は売掛金の時価に含めて記載している。

(4) 投資有価証券

これらの時価は、取引所の価格によっている。

(5) 買掛金、(6) 短期借入金、ならびに(7) 前受金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっている。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

科 目	貸借対照表計上額
投資有価証券(非上場株式)	32 百万円
長期差入保証金	23,939 百万円
長期預り保証金	(2,454) 百万円

VI. 賃貸等不動産関係

1. 賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、東京都その他の地域において、賃貸用サービスステーション設備等(土地を含む。)を有している。

2. 賃貸等不動産の時価等に関する事項

貸借対照表計上額	時 価
6,290 百万円	6,308 百万円

(注1) 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額である。

(注2) 当期末の時価は、適切に市場価格を反映していると考えられる指標を基に、当社で算定した金額である。

VII. 税効果会計関係

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因は、繰延税金資産は減価償却費、繰延税金負債は固定資産圧縮積立金、その他有価証券評価差額金である。

VIII. リースにより使用する固定資産関係

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務機器、計量機等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用している。

IX, 関連当事者情報

1. 関連当事者との取引

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	三愛石油株式会社	石油製品の販売	被所有 80%	当社製品の販売・購入 役員 の兼任	製品の販売 (注1)	70,165	売掛金	7,044
					製品の購入 (注1)	9,415	買掛金	842
					資金の貸付 (注2)	10,653	短期貸付金	6,710
					利息の受取 (注2)	7	—	—
					資金の借入 (注2)	3,529	短期借入金	10,000
					利息の支払 (注2)	8	—	—
その他の関係会社の子会社	コスモ石油株式会社	石油製品の精製・販売	—	当社製品の販売・購入	製品の販売 (注1)	6,592	売掛金	2,251
					製品の購入 (注1)	159,289	買掛金	22,649
子会社	キグナス石油販売株式会社	石油製品の販売	所有 100%	当社製品の販売 役員の兼任	製品の販売 (注1)	21,596	売掛金	665

上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれている。

取引条件および取引条件の決定方針等

(注1) 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して、価格交渉の上で決定している。

(注2) 資金の貸付および借入については、利率は市場金利を勘案して合理的に決定している。

なお、取引金額は期中の平均残高を記載している。

X, 1株当たり情報関係

1株当たり純資産額	151,728円40銭
1株当たり当期純利益	11,385円74銭